

編集後記

「新緑の心躍る時期になりました」で始めたいところだが、実は、桜の便りを聞きながらこの原稿を書いている。学校では新入生が、会社では新社会人が、そして、わが皮膚科でも、新人皮膚科医が新生活へのスタートを待ちわびておられることだろう。筆者が新人になった頃は、長い無給医時代が待ち受けていたが、それでも、新しい生活での挑戦に心をときめかしていたように記憶している。当時の皮膚科学の教科書には、原因不明と書かれた疾患が数多く並んでいた。今では多くの皮膚疾患の原因・病理が明らかになり、疾患ごとの内容も豊富になり、教科書もかなり分厚い物になっている。しかし、昔からあった病名が少しずつ減少しているのは残念である。もちろん新しい概念の下に削除されるべき病名や新しい名称に統合されるべき病名もあるのだが、皮膚科医の語彙量の減少を感じさせられるときもある。「そんな病名を聞くのは初めてだ」と言われることがあり、自分が古くなりすぎたのかと反省している。

今月の特集は「自然治癒する皮膚病」である。多く疾患で自然治癒が観察されている。皮膚疾患の多くは、反応性のものを含んでいるので、自然治癒が起こるのも当然ということになるのだろうが、なぜ自然治癒するのかという理由とその機序については推量の域を超えていないようだ。今回の特集は、私たちにさらなる宿題を課しているように思われる。新しくスタートされる皮膚科医が解答を出してくださることを心待ちしている。

(K.N.)

次号予告

Vol.38, No.6

特集 鑑別に苦慮した皮膚病(2)

- ◆editorial 西岡 清
- ◆topics 乾癬の免疫学的病態 本田 哲也
- ◆展望 食物アレルギーの抗原検索、最近の知見 森山 達哉
- ◆臨床例
 - 線状扁平苔癬との鑑別を要した線状苔癬 伊藤 恵梨ほか
 - 結核性反応性関節炎 浦田 透ほか
 - リポイド類壊死症と鑑別を要した皮下型皮膚サルコイド 角田 梨沙、安西 秀美
 - 尖圭コンジローマとの鑑別を要したCrohn病に伴う肛門病変 小川 智広ほか
 - 診断に苦慮した汎発性環状肉芽腫 川北 梨乃ほか
 - DLEを併発したC1 inhibitor欠損症 前島 英樹ほか
 - 当初、血管性浮腫を疑った上大静脈症候群 田口 良吉、寺木 祐一
 - 舌に生じ、類上皮型血管肉腫との鑑別を要した化膿性肉芽腫 (pyogenic granuloma) 田中麻衣子、秀 道広
 - 卵巣癌治療中に発症し薬疹との鑑別を要した皮膚筋炎 平田 祐子ほか
 - 弾性線維性仮性黄色腫との鑑別を要した腋窩の多発性丘疹の2例 佐藤 之恵ほか
 - 虚偽性障害(ミュンヒハウゼン症候群)により壊疽性膿皮症様の潰瘍を呈した1例 沼田 貴史ほか
 - 尋常性ざ瘡様の皮膚症状を呈した結節性硬化症 村山 梓ほか
 - トラマゾリン塩酸塩の外用が著効した酒さ 小川あかりほか
 - 無治療で出現と消褪を繰り返した顔面肉芽腫 江原 佳恵ほか
- ◆学会ハイライト
 - 第79回日本皮膚科学会東京支部・東部支部合同学術大会 原田 和俊、川口 雅一
- ◆皮心伝心 阿部理一郎
- ◆蝶の博物詩 西山 茂夫
- ◆診察室の四季 斉藤 隆三
- ◆皮膚科のトリビア 浅井 俊弥

皮膚病診療 Vol. 38, No.5(2016)

平成28年4月26日印刷
 平成28年5月1日発行
 1部定価2,400円(本体)+税 送料82円
 年ぎめ予約購読料35,800円(本体)+税

発売所／丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階
 TEL 03-3512-3256(代表・受注センター) FAX 03-3512-3270

編集人 西岡 清
 発行人 山田 淳史
 発行所 株式会社協和企画
 〒105-8320 東京都港区虎ノ門1-10-5
 日土地虎ノ門ビル3階
 電話：03-6838-9200(代) 03-6838-9225(編集)
 振替口座：00190-0-36746
 印刷所 株式会社 恒陽社印刷所

ご購入ご希望の方は直接弊社もしくは書店までお申し込みください。

© 株式会社 協和企画 2016年

・JCOPY <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。